

天声人語

はなはだし「格差婚」である。雑用に追われる若い助監督高峰さんにあこがれ、プロマイドを持ち歩いた。友人に誘われて脚本家の卵になり、撮影現場で高峰さんと出会う。「高峰さんと付き合わせてください」と監督峰さんに頭を下げる。身の程を弁えなさい」（斎藤明美著「家の履歴書文化人・芸術家篇」）▼初デートは銀座の高級料理店。並んだナイフやフォークを見て「使い方がわからない。先に食べてください。真似しますから」。正直さが高峰さんの心をつかんだ。1955（昭和30）年に結婚する▼芸能マスコミからは「3年ともたないのでは」とささやかれたが、屈指のおしどり夫婦となつた。松山さんのエッセーを読むと、えぐみも含んだ深い愛情を感じられる。妻を「負けず嫌いで、頑固一徹、明治生れの爺イに似ている」と評しながら、同時に「大恩人」とあがめていた▼監督として弱い立場にある人々の命が輝きを放つ映画をいくつも残した。デビュー作「名もなく貧しく美しく」では耳の聞こえない夫婦の暮らしを描いた。「典子は、今は薬害により生まれつき両腕を持たない女性の歩みを追って大ヒットした▼高峰さんが旅立つて6年、松山さんが亡くなつた。91歳。いまごろは、水入らずの時を楽しんでいるにちがない。「格差」を補つて余りある夫婦愛だった。「格

2016・9・4